

# 千変万化—革新期の古伊万里—

A Multitude of Change: Imari Ware in the 17th Century

瞬きの間に過ぎ行く、最も多様で趣深い時代



カラフルな上絵具による色絵、繊細な線描と濃密な塗り埋めの染付、精緻な型を駆使した端正な器形、色とりどりの釉薬が織りなす掛け分け。1640 年代から 60 年代頃は伊万里焼の技術的な革新期にあたり、以降の磁器製作の基盤となる技術が整います。この頃登場する「古九谷様式」と呼ばれる初期の色絵様式を筆頭に、技と創意の豊かな作風が発現しました。

今展では 17 世紀中期頃の伊万里焼の絵付けや成形といった装飾技法に注目しながら、革新期の多様さを紐解いていきます。次々と移り変わっていく時代を駆け抜けた名品の数々をご堪能ください。

会期 | 2025年1月15日(水)~3月30日(日)  
10:00~17:00 (入館受付は16:30まで)

\*金曜・土曜は10:00~20:00 (入館受付は19:30まで)

月曜・火曜休館 \*2月11日(火・祝)・2月24日(月・振休)は開館。

イベント | 【古伊万里入門解説】2月24日(月・振休) 14:00~

【展示解説】2月25日(土)・3月8日(土) 各午14:00~

入館料 | 一般1,200円 / 高大生500円 \*中学生以下は入館料無料。

\*1月15日(水)~1月31日(金)は新成人は入館料無料。

受付にて年齢のわかるものをご提示ください。

交通 | 渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分

京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分

\*当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。



## 展覧会情報

- ◇ 名称：千変万化—革新期の古伊万里—
- ◇ 会期：2025年1月15日（水）～3月30日（日）
- ◇ 開館時間：10:00～17:00（入館受付は16:30まで）  
※金曜・土曜は10:00～20:00（入館受付は19:30まで）
- ◇ 休館日：月曜・火曜  
※2月11日（火・祝）・2月24日（月・振休）は開館。
- ◇ 入館料：一般 1,200 円 / 高大生 500 円  
※中学生以下は入館料無料。  
※1月15日（水）～1月31日（金）は新成人は入館料無料。
- ◇ 会場：戸栗美術館（東京都渋谷区松濤1-11-3）
- ◇ 交通：渋谷駅ハチ公口より徒歩15分・地下鉄A2出口より徒歩12分  
京王井の頭線 神泉駅北口より徒歩10分  
※当館には駐車場はございません。近隣のコインパーキングをご利用ください。

## 今展の見どころと主な出展作品

### 様々な技を駆使した、創意溢れる古伊万里を出展

17世紀中期（1640年代～60年代）の伊万里焼を装飾技法に注目してご紹介する展覧会です。この頃は伊万里焼の技術的な革新期にあたり、以降の磁器製作の基盤となる技術が整います。しかし、程なくして海外輸出が本格化すると、1670年代には輸出向けの色絵様式である柿右衛門様式が成立。新たな販路を切り開く一方で、技術革新期に登場した初期の色絵様式である古九谷様式などに見られた作風の広がりは息を潜めてしまいます。17世紀中期の革新期は、瞬く間に過ぎ行きますが、名品多き時代でもあります。様々な技を駆使した創意溢れる古伊万里を館蔵品約80点から紐解きます。

#### ◎伊万里焼とは

1610年代に誕生した日本初の国産磁器。佐賀鍋島藩領の有田を中心とした地域で焼造され、近郊の伊万里の港から出荷されたために、消費地では「伊万里焼」の名で呼ばれました。江戸時代を通じて生産体制を整え、移り変わる需要者や流行に寄り添って様式を変遷させながら製作し��けたことで、現代まで連なる一大窯業地への途を辿ります。

#### 参考：今展で取り上げる伊万里焼の様式とその前後の遷移



#### 見どころ1 色絵の登場 ◇画像①②④

伊万里焼史上、技術革新期に釉薬の上に絵付けを施す色絵の技術が登場したのは大事でした。中国磁器や画譜などから影響を受けた、個性豊かな作風の初期の色絵様式「古九谷様式」が成立しました。

#### 見どころ2 染付の発展 ◇画像③⑤

染付は釉薬の下に絵付けを施す技術で、素地の白と絵付けの青色の調和が特徴です。初期に登場するこの技術は、革新期には絵具や釉薬、素地などの精製技術が上がったことで、より白い素地に深く鮮やかな青色をあらわすように。さらに線や濃だみ（塗り埋め）などの絵付け技法にも熟達が見られます。

#### 見どころ3 成形の妙技 ◇画像①②③④⑤⑥

磁器の成形方法の基本は轆轤挽きですが、革新期にはこれに加えて型を用いた成形が盛んに。轆轤と型を併用するもの（轆轤型打ち成形）や、切り出した粘土板を型に押し当てるもの（糸切り成形）など、型を用いることによってより端正に、造形のヴァリエーションも格段に広がりました。

#### 見どころ4 釉薬の趣向 ◇画像⑥

釉薬とは、やきものの表面に施されるガラス質の膜のこと。伊万里焼では殆どの場合は透明な釉薬を用いますが、そこに発色の材料となる金属化合物を加えた青磁、瑠璃、銹といった色釉を施した作例も見られます。革新期の伊万里焼には色釉を絵具のようにして装飾した趣向を凝らしたものも。

◆ 主な出展作品 ※ 画像①～⑥および展覧会ポスターの画像データ等をご用意しております。ご入用の際は、お手数ですが別紙写真借用申請書をお送りください。



画像①色絵 牡丹双蝶文 皿

伊万里（古九谷様式）江戸時代（17世紀中期）  
口径 35.2cm



画像②色絵 石畳文 皿

伊万里（古九谷様式）江戸時代（17世紀中期）  
口径 43.9cm



画像③  
染付 丸松竹梅文 瓶

伊万里  
江戸時代（17世紀中期）  
高 17.0cm



画像④色絵 梅花丸文 分銅形皿

伊万里（古九谷様式）江戸時代（17世紀中期）  
口径 13.0×9.9cm



画像⑤染付 花唐草文 変形皿

伊万里 江戸時代（17世紀中期）  
口径 14.3×12.6cm



画像⑥錆釉 木目文 変形皿

伊万里 江戸時代（17世紀中期）  
口径 14.7cm

## 展覧会紹介文

- ◇ 17世紀中期頃の伊万里焼の装飾技法に注目。(21字)
- ◇ 技術革新期にあたる17世紀中期頃の伊万里焼の絵付けや成形などの装飾技法に注目した展覧会。この頃登場する「古九谷様式」と呼ばれる初期の色絵様式を筆頭に、染付、成形、釉薬など様々な技術を駆使した創意溢れる作風の名品約80点を館蔵品から展覧する。(120字)
- ◇ 17世紀中期頃の伊万里焼の絵付けや成形などの装飾技法に注目し、革新期の多様な作風を展覧する。1640年代から60年代頃は伊万里焼の技術的な革新期にあたり、色絵、染付、成形、釉薬といった以降の磁器製作の基盤となる技術が整う。この頃登場する「古九谷様式」と呼ばれる初期の色絵様式を筆頭に、様々な技術を駆使した創意溢れる逸品が生まれた時代である。今展では、館蔵の名品約80点から革新期の多様性を紐解く。(198字)

## 会期中の催し物

- ◇ 展示解説『千変万化—革新期の古伊万里—』の見どころ  
2階展示室にて、当館学芸員が主な出展作品の見どころを紹介いたします。
  - 1月25日(土)・3月8日(土) 各日14:00～(約45分)
  - 参加費無料(要入館券) □予約不要
- ◇ 古伊万里入門解説  
古伊万里鑑賞をより楽しむための入門解説です。陶片に触れていただきながら、陶器と磁器の違いから、江戸時代の伊万里焼の作り方や様式変遷といった基礎を解説いたします。当日、ご参加の方には特製資料を贈呈いたします。  
※本解説では2階ロビー「伊万里焼ができるまで」、第3展示室「江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—」をご案内いたします。
  - 2月24日(月・振休) 14:00～(約45分) □予約不要
- ◇ ラウンジ&ギャラリー・トーク「17世紀中期の伊万里焼と技術革新」  
前半は1階ラウンジにて17世紀中期の伊万里焼における技術革新の様相についてお話しし、後半は2階展示室にて展示解説を行います。
  - 3月3日(月) 14:00～(約120分) □要事前予約 □先着30名様
  - 参加費 一般1,500円(税込)(入館券を別途お求めください)/年間パスポート会員1,200円(税込)  
※当日はご予約の方のみご入館いただけます。※13時30分開館、17時00分閉館です。

### 同時開催

- ◇ 『江戸時代の伊万里焼—誕生からの変遷—』(第3展示室)
- ◇ 『浜野まゆみ作品展』(やきもの展示室)

### 次回展予告

## 西洋帰りのIMARI展

### —柿右衛門・金襷手・染付—

2025年4月12日(土)～6月29日(日)

西洋からの里帰り品をはじめとした輸出向けの古伊万里を展示。



色絵 花鳥文 輪花皿  
伊万里(柿右衛門様式)  
江戸時代(17世紀後半)  
口径22.0cm

### お問い合わせ

公益財団法人 戸栗美術館 広報担当 宛

〒150-0046 東京都渋谷区松濤1-11-3

TEL: 03-3465-0070 FAX: 03-3467-9813 E-mail: kouhou@toguri-museum.or.jp

公式サイト: <https://www.toguri-museum.or.jp/>